



平成灯台守

2022. 4 月号

発行/御前埼灯台を守る会



5月の連休に灯台まつり

今年は御前埼灯台着工 150 年、国重要文化財指定を記念して「2022 御前埼灯台まつり」を5月1日（日）から5日（木）までの5日間開催します。

イベントの日程は次のとおりです。

灯台資料館開設 毎日9時から4時まで
内容 重要文化財指定、御前埼に灯台が必要な理由（海難事故、灯明堂、洋式灯台、御前岩灯台）、灯台守の仕事、現代の灯台、灯台の出来事、風景などの写真や資料を展示します。

海保特別公開 1日午前9時～午後4時
この日は大人も子供も灯台参観が無料。

屋外イベント（灯台前芝生広場）

- ・御小ソーラン踊り 1日 10:00～
- ・太鼓演奏 3日 10:00～
- ・うめたちあき・ラメールミニライブ「海・灯台を歌う」 3日 11:00～
- ・口笛演奏 1、3、5日午前
- ・ハーモニカ演奏 1、3、5日午前
- ・貝細工体験 1日、3日午前
- ・鯉のぼりのお腹くぐり 毎日
- ・その他シーサイドドリームダンス、JA 珍どん演舞も予定されています。

なお、コロナの感染状況によっては屋外イベントを中止する場合があります。

なぶら館や原子力館で出前灯台展

このところ、コロナ禍や灯台施設修繕により灯台資料館を開設する機会がありませんでしたので、2月、3月期は、観光物産会館「なぶら館」や中部電力原子力館の展示室【写真】で灯台展を開催しました。



なぶら館の1階の展示室には、新しく作成したパネル15枚をお披露目しました。

原子力館では、昨年夏、国の重要文化財となった御前埼灯台の指定内容をはじめ、灯台の出来事、風景等を写真、資料で紹介したほか、平成30年に亡くなられた白羽地区出身の俳優、加藤剛さんが主演した映画、舞台のポスター、台本、剛さん作の俳句等を展示しました。【写真下】



展示物は1カ月毎に交換し、御前崎市文化協会フォトクラブ会員が撮影した御前埼灯台の作品も展示しました。

コミ・フォーラムで活動発表

2月12日、市民会館で「コミュニティ・フォーラム2022」が開かれ、灯台を守る会が活動発表をしました。

これは、静岡県コミュニティづくり推進

協議会が東中西3地区を持ち回り開催しているもので、小山町の明倫地域まちづくり推進協議会、浜松市のフラワータウン和地、島田市のチームおもしろ五和駅、御前埼灯台を守る会の4団体が活動状況を紹介し、コロナ禍における活動の工夫や高齢化が進む中でどうやってコミュニティをつないでいくかをテーマに話し合われました。



文化財保存・活用団体に認定

灯台を守る会は3月28日、「ふじのくに文化財保存・活用推進団体」に認定され、川勝知事から認定書を受領しました。

過疎化、少子高齢化が進む中で、地域の文化財を将来に継承するため、地域ぐるみ、社会総がかりで活動している民間団体に協力を求めたものです。

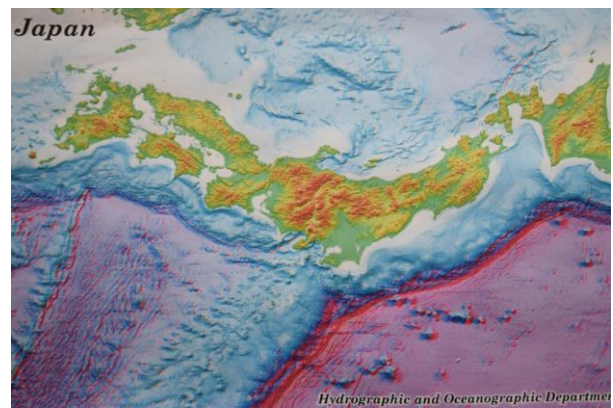
守る会は、灯台資料館の開設を中心に観光客や市民に御前埼灯台の歴史的価値や魅力を知ってもらい、文化財の大切さを呼び掛けていきたいと考えています。

海底の様子が一目いよう然

展示資料の更新のため御前埼海上保安署（遠田吉広署長）に色々相談していたところ、御前埼近海の海図と日本列島の海底地形図をいただきました。

サプライズプレゼントとなった海底地形図は、横3m、幅1mの大きなもので、3D専用のメガネを掛けると海の深さや形状、2011年の東北大震災の起きた日本海溝や巨大地震の発生が取り沙汰される南海トラフの海底の様子がリアルに分かります。

4月から灯台資料館で展示しています。



御前埼灯台の歴史 No.13

灯台守の仕事

昭和4年（1929）に発行された「我等の灯台守」（国立公文書館所蔵）を入手しましたので、御前埼灯台を訪れた慰問記者の記録を紹介します。

物すごい銀蛇

午前零時、月が落ちた後の暗い空の下に、無限に連なる魔の海のうごめきが、辺りをいばいに込めていた。遠州灘の突端御前埼の灯台、八面型のレンズから放射される63万燭光の光が、閃々と八条の銀蛇となって闇の中空に走る。

「灯台の上で見ると静かに旋回する光ですが、沖の船からは30秒毎にピカリピカリと閃いて見えます」森台長が説明する。その長大な八本の光の帯と帯の間に折々虹のように小さい縞目が漏れる。

「恐ろしい光ですね。こういう灯台があってもこの付近には難破船が絶えません。

明治18年以来この沖で難破した船、汽船と発動機船合せて56隻に上ります。

大正になってからも15隻があります。大部分は灯台が監視中に見付けましたが、一番物凄かったのは、大正15年9月17日の夕方の事で、灯台から半マイル沖を漂流していた汽船が、急に左に傾いて来ました。」そう言って、森台長は当時をまざまざと記憶から呼び起こしたように、語り始めた。以下次号。

by masatoshi